

モデル事業名	伝統的古民家再生と地域資源の活用を通じた新たなコミュニティの創出
活動団体名	小原ECOプロジェクト
ホームページ	http://www.katsuyama-ohara.com
所属/ 担当者名	國吉 一實
連絡先	ohara-eco@nifty.ne.jp
活動地域	福井県勝山市小原地区

● 活動地域の概要

・福井県勝山市の北東部に位置し石川県境に隣接した山深い山間集落であり集落の成り立ちは集落周辺に点在する中世旧跡などからの推察により1000年を超える。その長い歴史の中で培われた生活文化も集落の終焉と共に消えようとしている。

・ 90世帯 500人（明治期） = 28世帯 80人（昭和55年） = 2世帯 2人（現在）
平均年齢72歳 高齢化率100%

・公共交通の現状= 2便/日のコミュニティバス（予約制）

・産業=（昭和30年代迄）木炭製造、林業（現在）特になし

・地域森林面積95% 耕作放棄地等4%

・家屋数17棟（内11棟が空き屋）

民家調査により福井県内には唯一残る白山麓地域に共通する建築様式（大壁造り、腕木等）を持った古民家群であり急傾斜地の石垣の上に建つ集落景観は独特である。現在までに他の事業も含め4棟を古民家修復活動により修復し集落景観の修復の一端やエコツアー等に活用。



【位置図】

【伝統的建築様式の古民家群】【コミュニティの崩壊と文化の衰退が進む集落】

● 活動地域の課題

・平成18年豪雪による集落民家の損壊（28棟中15棟が全損壊）により景観の悪化、倒壊の危険性、地域住民への絶望感が指摘されている。

・上記の豪雪による古民家群の損壊や急激な過疎化による伝統的生活文化の衰退と喪失が懸念され、歴史と風土の中で培われた文化の伝承・保存・記録が望まれている。

・住民が2人という中で崩壊したコミュニティや失われた集落機能の中では集落の消滅により管理者不在による森林の荒廃、耕作放棄地の拡大、ゴミの不法投棄など自然環境荒廃が懸念されている。

● 活動の内容

・平成20年度

- ① 大学等教育機関との協働による古民家調査及び修復を実施。
- ② ①による修復古民家を拠点とした地域文化継承や交流による地域活性化を探る体験会実施等の研究調査。
- ③ 地域資源（歴史・文化・自然）の活用によるエコツアーコース設営のモニタリング、ワークショップ等開催による調査研究。
- ④ ①, ②, ③, による集落景観の再生や地域資源の有効活用による活性化等を多様な団体、個人との連携、協働により活動を展開しつつのネットワークの構築を図り新たなコミュニティの創出を試みる。

・平成21年度

- ① 20年度事業による修復民家の内部修復を実施。世代間交流及び地域間交流の拠点としての活用。
- ② 伝統的生活文化の継承、記憶づくりと題し体験会の実施、対象文化のデータベース化、映像保存を実施。
- ③ 地域資源活用策としてのモデルエコツアーコースの設営及び運営を図る
- ④ 構築されつつある新たなコミュニティ組織による地域活動（祭り、草刈り、雪おろし等）の試行と新たなコミュニティビジネスの立上げを目指した研究調査。

● 活動の成果

・平成20年度

1. 古民家（外観）修復による地域景観修復の一端を担えた。
2. 地域資源の有効活用によるツアーコース開設への足がかりが作れた。
3. 伝統・生活文化継承へのきっかけづくり。
4. 世代間、地域間交流の活発化促進へ向けた動きが芽生えた。

活動全体を通じた中での住民の誇り回復への寄与や新たな地域ネットワークの構築。



(古民家修復の様子)



(民家活用策：文化継承体験会)

● 平成21年度

- ・ 古民家の内部修復を終え交流体験施設としての活用を実践。また、モデルエコツアーコースとしてのガイドコースを開設し集落の新たな魅力を伝えることができた。
- ・ 伝統文化のデータベースを図る聞き取り調査等の中で住民らの文化に対する新たな認識と再発見があり自らが持つ地域文化について自信と誇りを持つようになった。
- ・ 地域固有の農産物等の販売所開設を試み、コミュニティビジネスの可能性を探る中で耕作放棄地の活用や新たなコミュニティ組織の地域活動とリンクした中での草刈り等が展開でき、新たにコミュニティ組織へ加わる団体・個人の動きもあった。



(モデルエコツアー：シシ垣探索)



(地域活動：神社雪囲い)

● 今後の課題及び展望

・課題

- ①年間を通じて地域活動、体験会、エコツアー等の地域に根ざした活動を展開する中でコミュニティ組織内における活動日程の調整の難しさが挙げられる。リーダーシップを執ることができる数名の人材確保が必要である。
- ②公共交通が乏しい地域であり、訪問を試みる人や地域活動に参加する人などへの市街地からの移手段の確保。

・展望

- ①地域及び組織運営の資金確保を図る中での新たなコミュニティビジネスへの取組みを検討。
- ②修復民家 ⇒ エコツアー ⇒ 体験会 と展開する流れは 地域景観の保全 ⇒ 地域資源の活用策 ⇒ 文化の保存継承へと結びつく中で、今後は耕作放棄地の再生や農林地保全へ向けた新たな活動を検討。